

泌尿器科

部長 射場 昭典

泌尿器科ご紹介

りんくう総合医療センター泌尿器科は、日本泌尿器科学会認定専門医教育施設、拠点教育施設であり、現在4名の医師（指導医：1名、専門医：2名、泌尿器腹腔鏡技術認定：1名、泌尿器ロボット手術認定：3名）で構成されており、南泉州地域の基幹病院として泌尿器科疾患全般の診療を行っております。泌尿器科悪性腫瘍（腎癌、膀胱癌、腎盂尿管癌、前立腺癌、精巣癌、陰茎癌）、尿路結石症、尿路感染症、排尿障害、小児泌尿器科疾患（包茎、停留精巣）をはじめとする泌尿器科の病気を治療することが可能です。



泌尿器科のメンバー

診療体制と実績

外来診察は月、火、木、金曜日の午前に行っており、午後からは膀胱鏡検査、経直腸的前立腺生検や尿路造影検査などを行っております。手術日は水曜日と金曜日で、2023年の年間手術件数（ESWL※を除く）は385件でした。主な手術として、副腎腫瘍、腎癌、腎盂尿管癌に対する腹腔鏡下手術は25件、膀胱癌に対する経尿道的膀胱腫瘍切除術103件、膀胱全摘+尿路変更術4件、尿路結石症に対する経尿道的尿管砕石術は102件、経皮的経尿道的同時結石砕石術は18件、前立腺肥大症に

対する経尿道的ホルミウムレーザー前立腺核出術は42件、尿管管遺残に対する腹腔鏡下尿管管摘除術は8件、ESWLは89件でした。

手術支援ロボット「ダビンチ」とロボット支援手術

1980年代末に戦場での遠隔手術を目的として、米国防軍とスタンフォード研究所において手術支援ロボットの開発が始まりました。湾岸戦争が予想より早く終結したため、開発は民間に委譲され、1999年に手術支援ロボット「ダビンチ（初代）」が完成しました。その後改良を重ねられ、現在、当院にも導入された「ダビンチXi」が最新の機器となっております。「ダビンチ」は、術者がロボットを操作するためのサージョンコンソールと3本の鉗子とカメラを取り付けるロボットアームからなるペイシエントカート、術中に画質を最適化する処理装置が収納されるビジョンカートから構成されております。ロボット支援手術では、身体にあけた小さな穴に鉗子（手術器具）を挿入し、医師がハイビジョンカメラの映像を見ながら4本の腕を持ったロボットを遠隔操作して手術を行います。まるで自分が小さくなって、患者さんの体内に入り込んで手術をしているような感覚になり、従来の手術方法より緻密な手術を容易に行うことができます。



ロボット操作の様子

ロボット支援手術開始しました

2023年12月当院にも「ダビンチXi」が導入され、ロボット支援前立腺全摘除術を施行しました。部長の射場は和歌山県立医科大学在職中（2013・2018）に100件以上のロボット支援手術の経験があります（術者は約50件）。2023年4月から和歌山県立医科大学の関連施設でロボット支援手術を再開し、十分な経験を積

んだ状態で1例目の執刀を行っております。以降、順調に症例数を重ねており、2024年5月1日時点で11例に施行しております。術中に大きな合併症もなく、術後経過も概ね良好です。現在、泌尿器外科領域における腹部メジャー手術のほとんどがロボット支援下に実施可能となっております。今後当科でもあらゆる術式を順次ロボット支援手術に移行していく予定です。

患者様へ

泌尿器科の進歩は著しく、外科的治療では低侵襲治療としてロボット支援手術が普及し、薬物治療では革新的な新薬が次々に生み出されております。私が医師になった25年前には想像もつかなかった治療が普通に行われるようになってきております。当科ではスタッフ一同、多くの患者様から「ありがとう」と言っていたように、患者様に最新で良質な医療を安全に提供できるように努力しております。泌尿器科のご病気でお困りのことがあれば、ぜひ当科を受診してください。いずれの疾患に対しても真摯に対応させていただきます。

※ESWL：体外衝撃波結石破砕術



ダビンチXi

Profile



射場 昭典
(いば あきのり)

- 2001年3月 和歌山県立医科大学 卒業
- 2013年4月 和歌山県立医科大学 泌尿器科学 助教
- 2017年4月 和歌山県立医科大学 泌尿器科学 講師
- 2018年4月 新宮市立医療センター 泌尿器科 部長
- 2020年7月～現在 りんくう総合医療センター 泌尿器科 部長